

# 大和市協働ルール 職員研修

# ワークショップだより

発行日：平成 13 年 7 月 15 日 発行：玉川まちづくりハウス・大和市市民活動課

## 全体のスケジュール

- 第 1 回協働ルール検討会議【H.13/1/30】
- 第 2 回協働ルール検討会議【H.13/3/2】
- 第 3 回協働ルール検討会議【H.13/4/19】
- 第 4 回協働ルール検討会議【H.13/5/24】

## 職員研修ワークショップ【H.13/6/26】 『ワークショップ基礎講座』

第 5 回協働ルール検討会議【H.13/7/5】

第 1 回ワークショップ【H.13/7/15】  
『新しい公共のイメージを共有する』  
『市民活動推進条例の目的と意味について考える』

第 2 回ワークショップ【H.13/8/5】  
『市民活動の主体を整理する』  
『パートナーシップ事業の可能性を考える』

第 6 回協働ルール検討会議【H.13/8/31】

第 3 回ワークショップ【H.13/9/15】  
『協働プロジェクトをシュミレーション』  
『協働事業の問題点を整理する』

第 7 回協働ルール検討会議【H.13/10/4】

第 4 回ワークショップ【H.13/10/21】  
『検討会議から問題提起をしてもらう』  
『条例化のポイントを洗い出す』

第 5 回ワークショップ【H.13/11/18】  
『検討会議から問題提起をしてもらう』  
『条例化のポイントを洗い出す』

第 8 回協働ルール検討会議【H.13/12月上旬】

提言【12月】

(仮称)市民活動推進条例【H.14年度】

## 行政と市民が協働して築く 『新しい公共』を目指して



今回のワークショップは、職員の研修を兼ねたものですが、引き続き協働ルールに関する市民ワークショップとして5回に渡って行われる検討会の前段の勉強会として行われました。当日は、幅広い職域から30名ほどの参加者に加え市民の方も何人が参加されました。

テーマとしては、『NPOの活動事例をとおしてNPO的活動精神を学ぶ』ということで、始めに世田谷で10年間活動している玉川まちづくりハウスの活動が紹介されました。



研修自体は全体がワークショップ形式で進行し、結果として二つ目のテーマである『ワークショップによる合意形成技術を学ぶ』ことを意図しました。

最後に高座渋谷の区画整理事務所が一昨年実施したワークショップの紹介もあり、大和市が取り組んでいるワークショップの現状を職員の方に知ってもらう機会ともなりました。



# NPO的活動って何？



玉川まちづくりハウスの運営委員として設立当初から係わっている伊藤さんから、ハウスの特徴や活動の広がりについて報告がありました。

1 世田谷区には 2001 年 3 月現在 54 の NPO 法人が設立されている。

2 ここで言っている『NPO 的活動』とは、法人の認証手続きのあるなしに係わらず、広く公益的な市民活動を指している。

3 一般にまちづくり NPO には、「地域密着型 NPO」と「テーマ型 NPO」があると言われている。玉川まちづくりハウスは、「地域密着型 NPO」として地域の暮らしの問題に総合的に取り組んでいる。（公共施設の計画づくり、住環境の保全、高齢者の暮らしの支援等）

4 一方でワークショップなどのまちづくり技術の普及や各地のまちづくり活動団体とのネットワークづくり等の活動では全国的なネットワークを広げている。

5 ハウスの活動は、地域コミュニティのコミュニケーションを重層的につくり出し、多様な人材の発掘をすることにある。

6 地域通貨や債券の発行によって資金を地域から直接調達する等という取り組みを現在、試みている。

## ワークショップミニ講座

ワークショップは普通の会議と違うのですか？

ワークショップとは、何かのテーマについてアイデアを出し合い意志決定をするコミュニケーションの技術です。通常の会議と違うのは、誰もが自由に意見を言いやすいように工夫されていること、グループの創造的合意形成を大切にしていること、そして形式張っていないことです。まじめな話を気軽にできる会議の形式なのです。

ワークショップでは参加した人全員が十分にその日のテーマについて意見を言うことができたと感じられるように様々なプログラムが準備されます。一つ一つのプログラムにおいて話し合いを親密に進めるためには、経験上 6 ~ 8 人程度のグループにすることが有効です。

ワークショップでは、グループに分かれて話し合うことが多いのはなぜですか？

ワークショップにプログラムは必要なのですか？

プログラムを用意することは、しばしばある結論へ導くことと誤解されます。ワークショップのプログラムづくりとは、あらかじめ決まった結論へと導く流れを考えるのではなく、参加者全員で知恵を絞り、判断を下すための合理的な進め方を考えることです。

ファシリテーターとは何をする人ですか？

ファシリテーターとは中立的な立場から会議の進行役を務める人です。声の大きな人や偏った立場からだけの話し合いにならないように注意するのも、建設的に無駄なく話し合いが進むように工夫するのもファシリテーターの役割です。ファシリテーターは出された意見の善し悪しを判断しません。会議の進行と中身を考える役割を分担し、会議がスムーズに進むようにするための役割なのです。



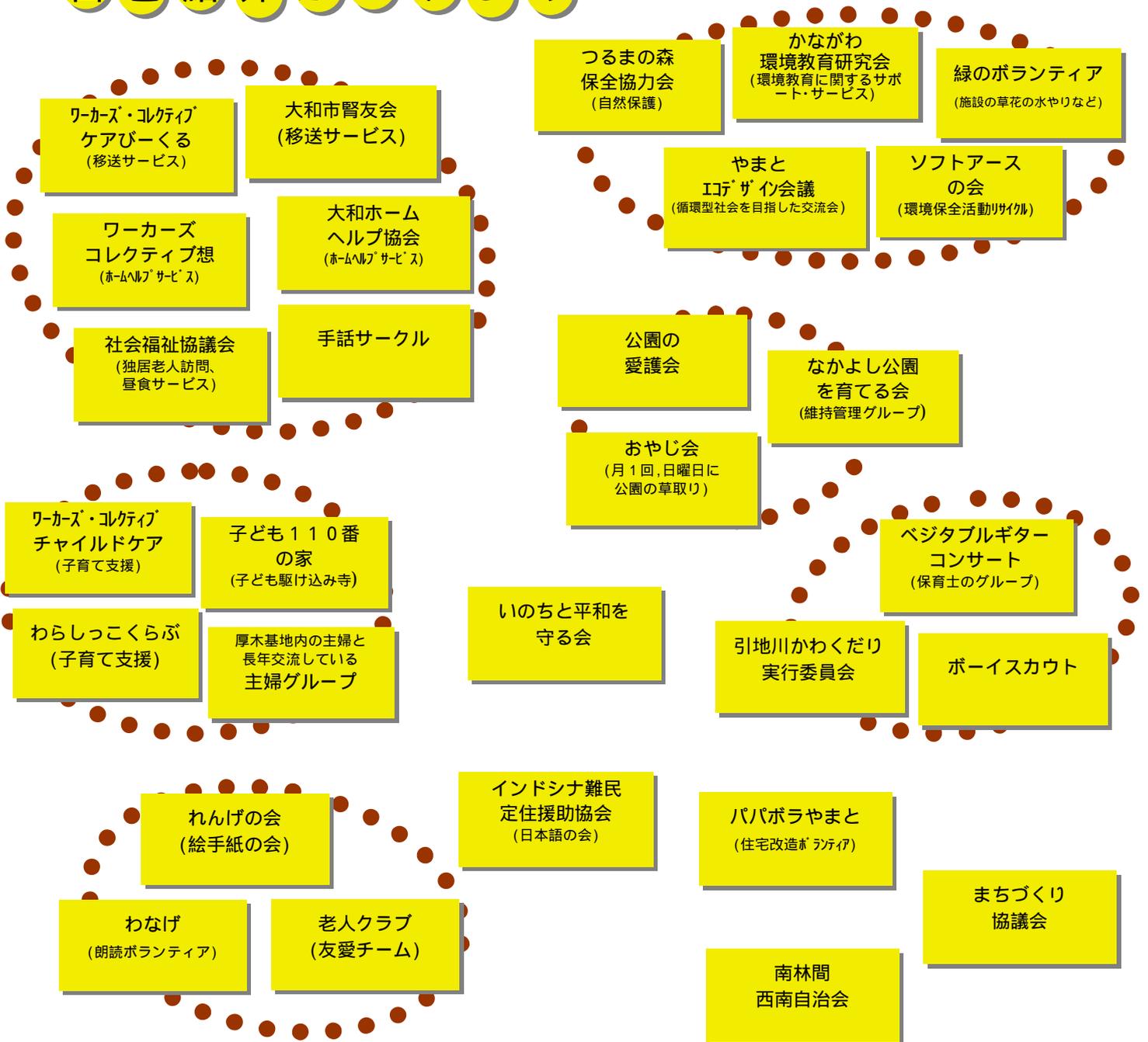
# 大和市のNPO的活動団体は？



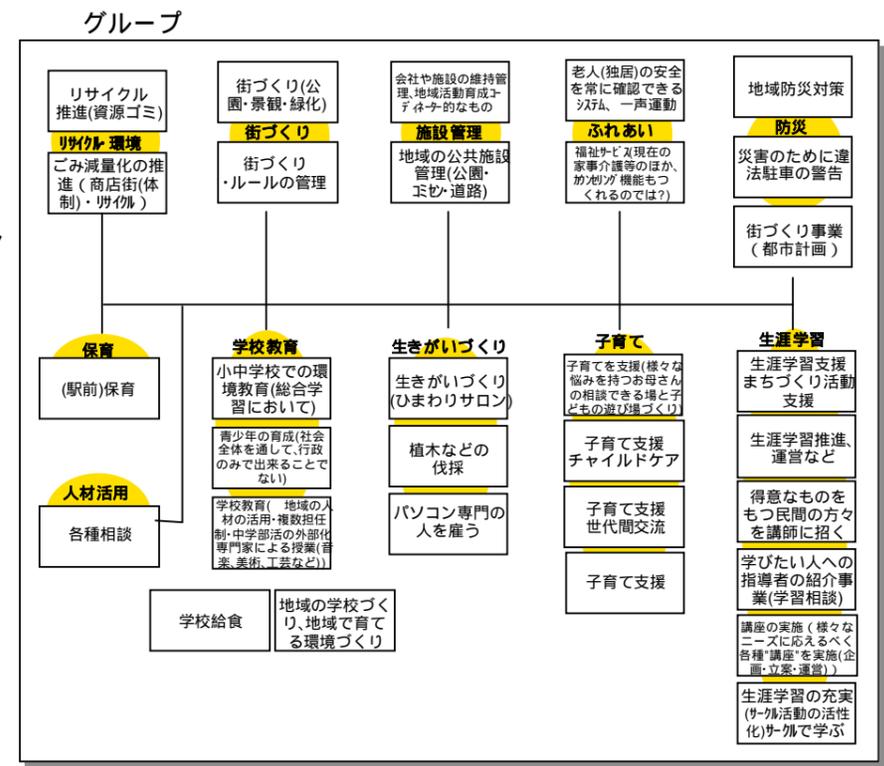
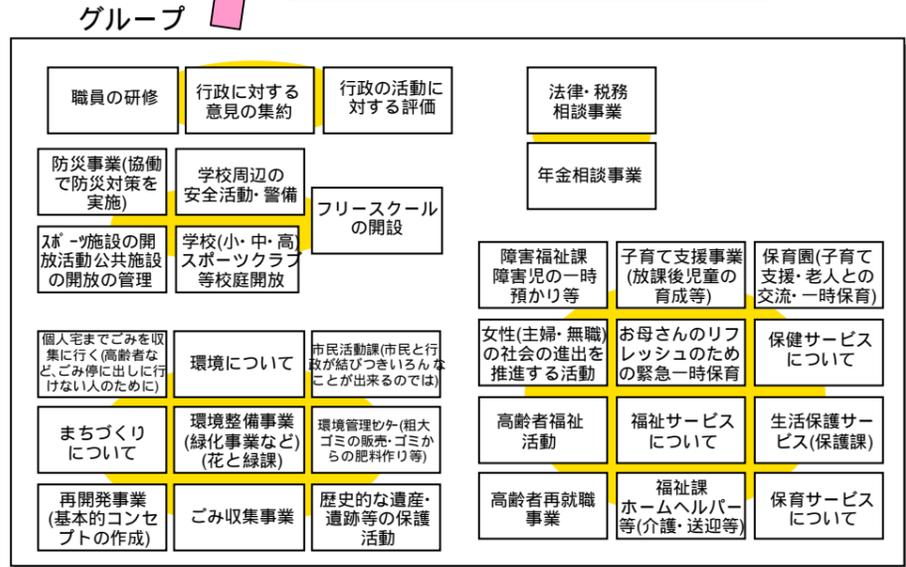
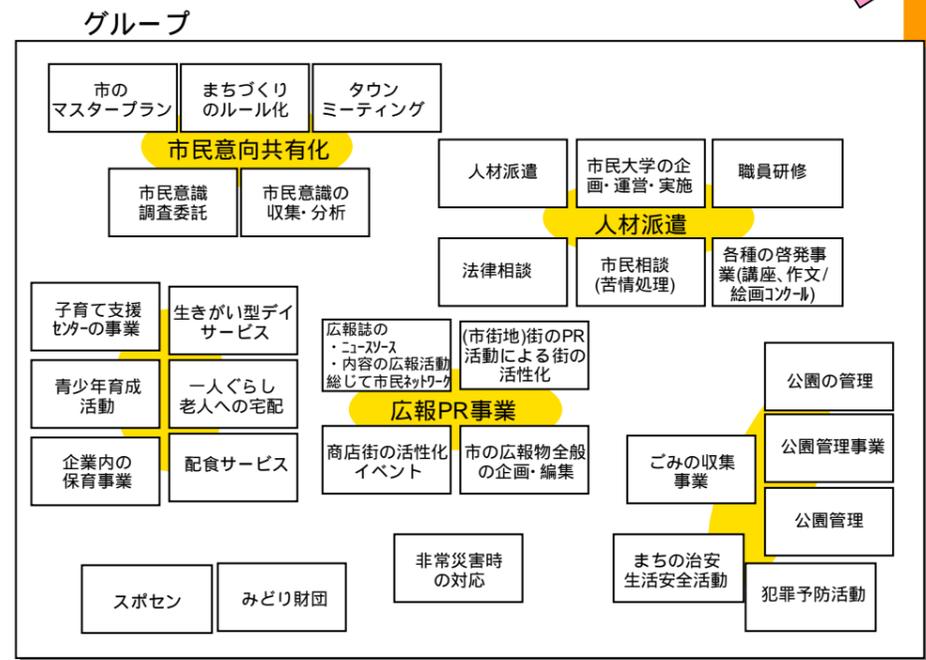
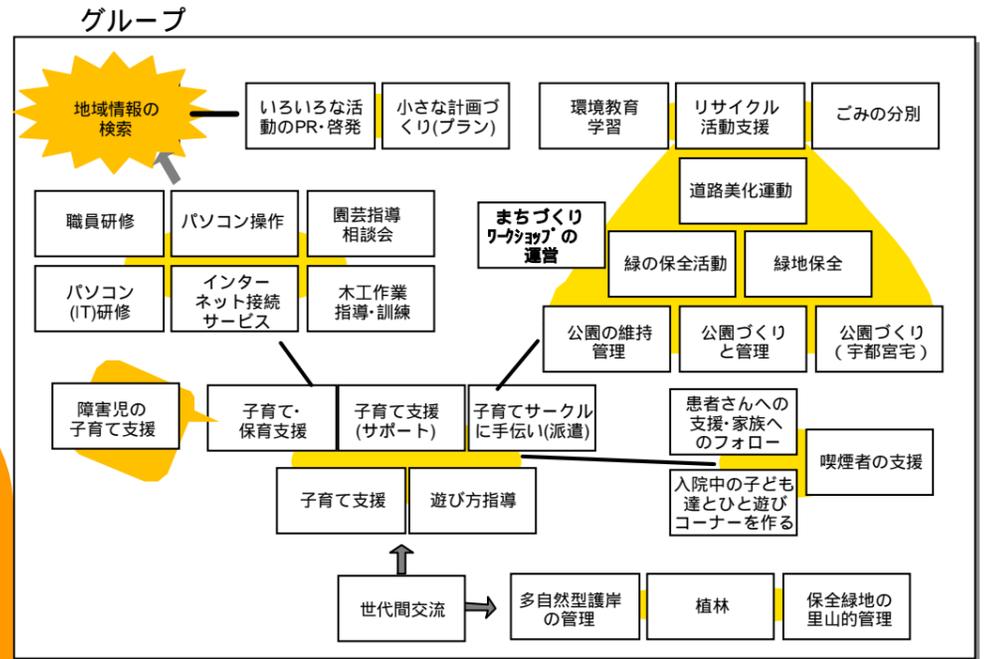
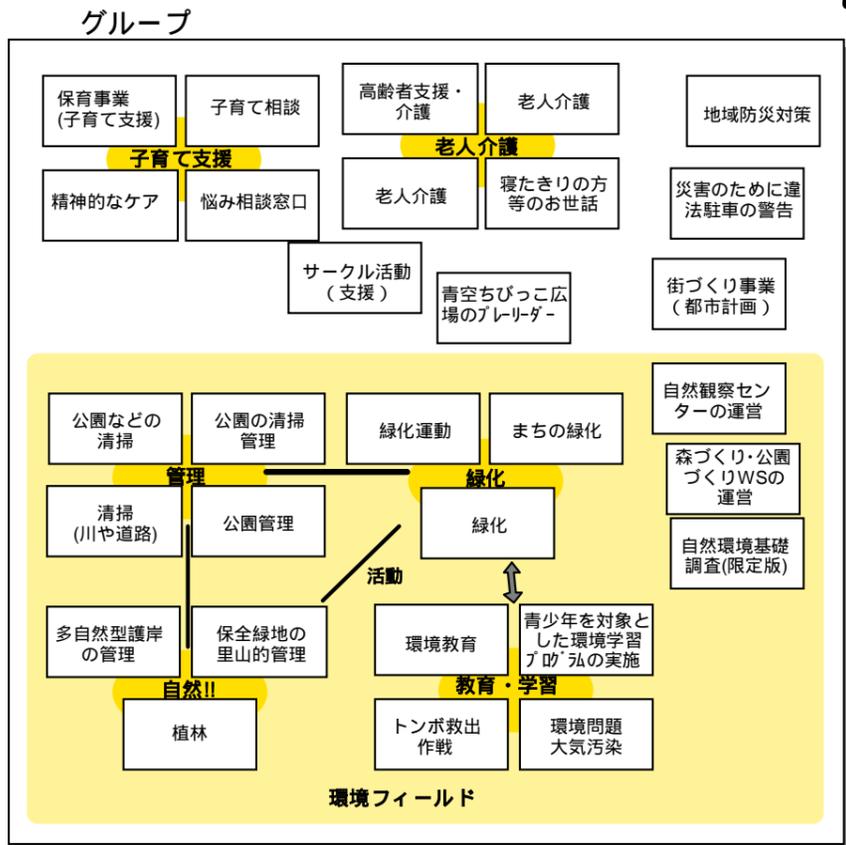
グループごとに別れて、カードに「あなたが知っている大和市のNPO的活動」を記入し、発表しながら自己紹介を行いました。

福祉、環境、自治活動、教育・子育て、芸術・文化等、様々な分野で活動している団体がいることが分かりました。

## 自己紹介カードより



# 協働事業の可能性を考える



# 旗あげアンケート

「行政とNPOの協働」について旗あげアンケートで設問に答えてもらいました。

インポイント



旗あげアンケートは、参加者全員が何らかのかたちで意思表示できるワークショップの手法です。その場で結果が全員に分かり、会場全体の意見や立場の違いを一目で知ることができます。



## 【設問 1】

NPO の活動について具体的に知っていますか？

NPO の活動に直接参加したことがある。	6 人
一般的知識としては持っている。おおよそイメージできる。	5 人
興味はあるが、具体的なことはよく分からない。	13 人
今日初めて聞いた。NPO といわれてもほとんどわからない。	5 人
その他	1 人

選んだ理由

と の間。活動している人から直接情報を聞いたことがあるので具体的にイメージできるが、活動に参加したわけではないので を選択。

旗あげアンケートは、あくまでも話し合いの手法の一つとして考えられたものです。設問の行間を議論することが目的であり、多数決で結果を出すために行うのではないことを理解して下さい。



参加者の考え方や意見を聞き出すことを目的とした設問では、グループで話し合った後でアンケートを行う方法もあります。設問内容は、どれを選んでもおかしくないような選択肢を考えることがポイントになります。誰が見ても明らかであるようなアンケートでは話し合いのきっかけづくりにはなりません。

## 【設問 2】

NPO の活動の特徴についてお聞きします。

行政は税金を使うという点で公平でなくてはならないので、地域ごとに異なる全てのニーズには応えられない。より多様なニーズには市民の活動で対応してもらおう



ワンポイント  
アドバイス

選択の結果が出たら少数意見の項目を選んだ参加者に全体の場での発言をお願いします。このことによって参加者全員に課題に対する視点や立場の違いを理解してもらうことができます。

NPO の活動が実現しようとしている公共性は行政の目指すものと同じである	4 人
公益的な活動とはいえ NPO の担う部分と行政の担う部分は基本的に異なる	6 人
行政の立場から見ると NPO と営利企業の活動の区別はつけられない	4 人
NPO といってもその内容は多様である。ひとくくりにして議論はできない	15 人
その他	0 人

選んだ理由

官も民も同じ目標・公共性を目指すことが理想であると考えた

行政隙間、下部的な活動でお金が儲かるならその方がよい

ワンポイント



アドバイス

結果を予想したり、自分の選んだ内容と参加者全体の意見の違いを考えることで全体の中での自分の位置を知りきっかけを見つけることができます。旗上げアンケートは、合意形成へのスタートラインをつくるプログラムです。

## 【設問 3】

NPO の活動の必要性についてお聞きします。

これからの時代は基本的に行政と NPO の協働を拡大し、できるだけ NPO に任せていくべきである。	12 人
行政の苦手な部分ややりきれない部分を NPO に補ってもらい市民へのサービスを充実させていく時代である。	14 人
基本的な部分はいくまでも行政で担い、プラスの部分に NPO に期待すべきである。	2 人
あくまでも先駆的な部分として NPO の活動があり、多くの市民が望めば行政サービスとして普遍化すべきである。	1 人
その他	0 人

選んだ理由

行政は全体、NPO は地域という役割分担。サービスは小さくなるかもしれないが、行政は公平・公正でなければならない。きめ細かなサービスは NPO に任せる。

今の時代は だと思う。とも思ったが を選んだ。NPO 的活動というのは生活者の発想、現実的な活動から生まれるもので、行政的発想とは違うのでは。それが支持されれば行政サービスに。

# 感想カードより

## NPOについて学べき

具体的にはほとんど何も知らなかった NPO 的活動について色々知ることができ、勉強になった

NPO についてイメージ的なものがつかめた

今どきの市民はあんなにたくさん集まって積極的に参加できるのだと知り少し驚いた

行政だけで担えないきめ細かい部分のニーズを NPO と協働ワークで、お金だけで解決するのではない幸せが市民全体に得られればとてもよいことだと思った

ビデオで高座渋谷のワークショップの実例を見て、3年前にはこのようなことをしていなかったのがビックリした。

こういう研修を続けて肌で市民参加、市民と対話する術を学んでいけば市役所も変わるぜえと思う

行政職員として、更なる修行(?)を積んでいくことを決意。今私が一歩をふみ出す必要がある

しっかりとした参加手法を身につけ、市民と議論できる土壌づくりが重要

## NPOは重要!

これからの地方分権に基づく地方自治を展開していくうえで、NPO との協働の必要性を強く感じた

今後 NPO に担ってもらう事業について、行政の考え方や NPO 側の考え方をマッチングさせることが必要であることを学んだ

NPO は分野が幅広く、今後の展開の可能性も大きいと感じた

## ワークショップの有効性を実感!

聞きなれず、とまどいがあったが、グループで話し合いをすすめていくうちに、身近な問題や行動の糸口があると実感した。

いろいろな人と話をする中で自分1人では思いもつけない考えがでてくることに驚きを感じた

ワークショップをすることにより議論では得られないコミュニケーションが生まれることを実感。

多くの人がいると、意見がまとまりにくい中、楽しく進めていくことができる事で良い結果が出てくる手法なのだと思った

次回のお知らせ

## 第2回大和市協働ルールワークショップ

日時:平成 13 年 8 月 5 日(日)13:30 - 16:30 場所:鶴間コミセン集会室

テーマ:『市民活動の主体を整理する』

『パートナーシップ事業の可能性を考える』